



木徳神糧株式会社

2011年12月期

決算説明会

 木徳神糧株式会社
2012年3月2日(金)



KITOKU SHINRYO

木徳神糧株式会社

2011年12月期連結業績の説明

- 目次
1. 連結損益計算書
 2. 連結セグメント別損益
 3. 米穀事業の販売数量と単価の内訳
 4. コメの相対取引価格の推移
 5. 連結特別損益の内訳
 6. 連結貸借対照表
 7. 連結有利子負債残高の推移
 8. 連結キャッシュフロー
 9. 株主還元(配当)



1. 連結損益計算書

木徳神糧株式会社

単位:百万円、%

項目	11年12月期実績	10年12月期実績	増減	比率
売上高	100,745	102,284	△1,539	△1.5
営業利益	1,568	1,226	+342	+27.9
経常利益	1,574	1,087	+487	+44.8
当期純利益	351	585	△234	△39.9

前年同期比の主要増減要因

売 上 高	米穀事業	△ 2,337百万円	(22年産米の販売価格が21年産米より下落)
	鶏卵事業	△ 387百万円	(相場の低迷と取扱数量の減少)
	飼料事業	+ 740百万円	(牧草、穀類や糟糠類の取扱数量の増加)
	食品事業	+ 444百万円	(米粉や機能性食品の販売増加)
営 業 利 益	米穀事業	+ 397百万円	(仕入施策の効果、販売数量増による利益の拡大)
	飼料事業	+ 47百万円	(取扱数量増による利益の拡大)
	食品事業	△ 35百万円	(鶏肉販売や惣菜販売の低迷)
経 常 利 益	営業外収益	+ 51百万円	(配合飼料に係る補填金等の増加)
	営業外費用	△ 93百万円	(支払利息減少 41百万円 為替差損減少 38百万円)
当期純利益	特別利益	+ 405百万円	(災害保険金 249百万円 災害補填金 175百万円)
	特別損失	+ 1,087百万円	(災害損失 834百万円 減損損失 265百万円)

注:数値は百万円未満切り捨て。



2. 連結セグメント別損益

木徳神糧株式会社

単位:百万円、%

項目	11年12月期実績		10年12月期実績		増減		比率	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
連結合計	100,745	1,568	102,284	1,226	△1,539	+342	△1.5	+27.9
米穀事業	80,964	2,095	83,301	1,698	△2,337	+397	△2.8	+23.4
食品事業	9,072	13	8,628	48	+444	△35	+5.1	△70.8
鶏卵事業	5,722	98	6,109	98	△387	△0	△6.3	△0.7
飼料事業	4,985	305	4,245	258	+740	+47	+17.4	+18.2
消去又は全社	-	△944	-	△877	-	△67	-	+7.7

注: 数値は百万円未満切捨て。



3. 米穀事業の販売数量と単価の内訳

木徳神糧株式会社

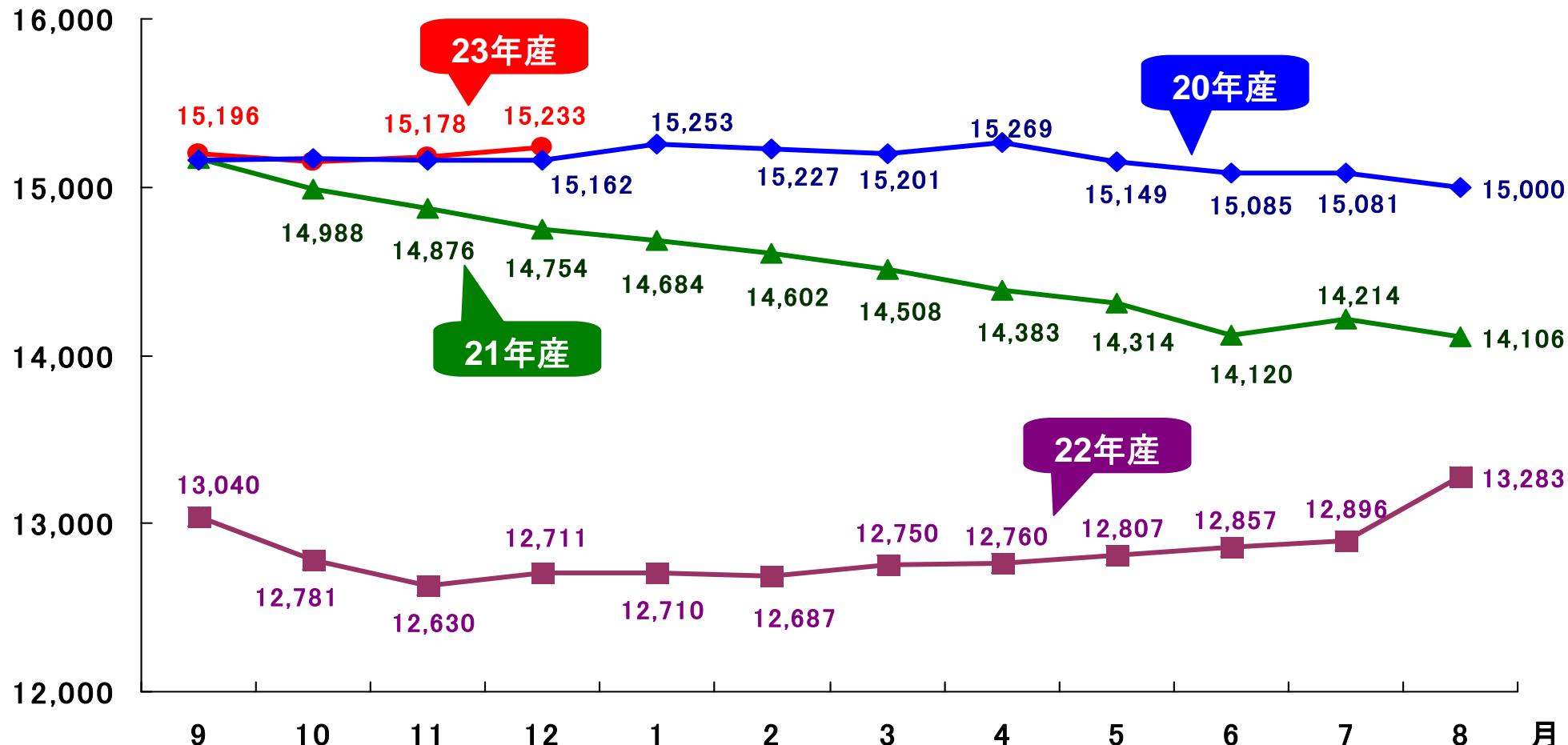
単位:トン、円/キロ、%

項目	11年12月期実績		10年12月期実績		増減		比率	
	数量	販売単価	数量	販売単価	数量	販売単価	数量	販売単価
玄米	119,991	204.4	111,901	221.1	+8,090	△16.7	+7.2	△7.6
精米	292,995	192.3	257,052	227.0	+35,943	△34.7	+14.0	△15.3
合計	412,986	-	368,954	-	+44,032	-	+11.9	-

注:精米の数量及び販売単価には、MA米・SBS米の取扱いを含んでおります。

4. コメの相対取引価格の推移

単位:円/60キロ



注: 1. 価格には、運賃、包装代、消費税相当額が含まれている。

2. 相対取引価格は全銘柄平均価格であり、産地銘柄ごとの前年産検査数量ウエイトで加重平均した価格である。



5. 連結特別損益の内訳

木徳神糧株式会社

単位:百万円

特別利益	分類	金額	注記
災害保険金	機械設備	249	震災被害による保険金
災害補填金	たな卸資産	175	卸組合からの補填金
その他等		18	貸倒引当金戻入額ほか
特別利益合計		443	
特別損失	分類	金額	注記
災害損失	建物・機械設備等	369	建物・建物附属設備、構築物、機械装置等の損失
		114	精米工場・食品工場の建物・設備の修繕費用
		77	残存リース料、建物等の撤去費用
	たな卸資産	272	原材料、製品、商品、仕掛品の滅失
	計	834	
減損損失	土地	265	仙台工場の土地の減損処理による損失
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額		91	資産除去債務の計上による損失
その他等		33	貸倒引当金繰入額ほか
特別損失合計		1,224	

注:数値は百万円未満切捨て。



6. 連結貸借対照表

木徳神糧株式会社

単位:百万円

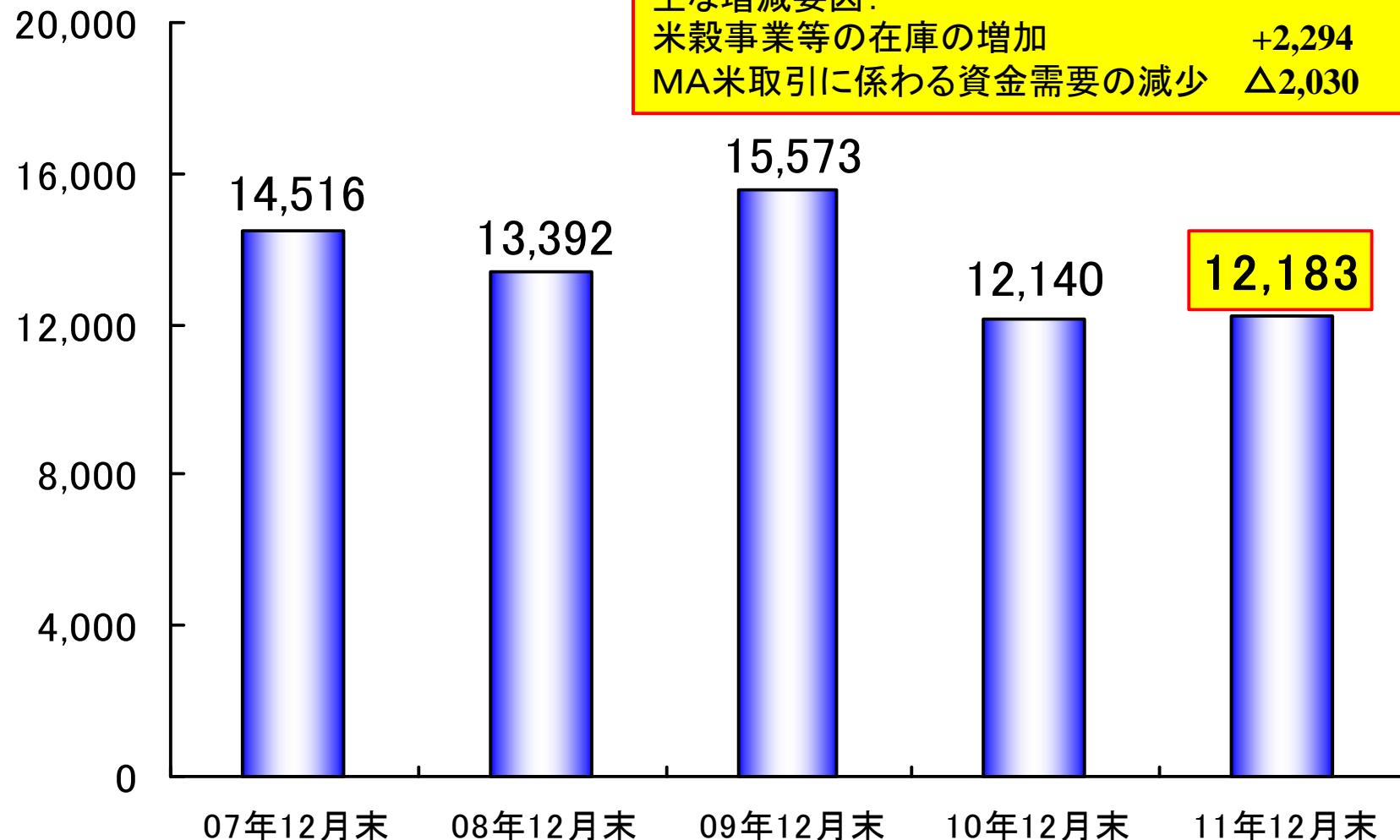
項目	11年12月期 実績	10年12月期 実績	増 減	増減要因
流動資産	19,724	17,495	+2,229	たな卸資産 +2,294 現金預金 +1,058 売掛金 +960 前渡金(*) △2,299
固定資産	7,299	8,228	△929	固定資産除却損 △372 減損損失 △265
資産合計	27,024	25,724	+1,300	
流動負債	18,128	16,981	+1,147	買掛金 +1,106 未払法人税等 +206 短期借入金等 +141 前受金(*) △269
固定負債	2,888	2,990	△102	社債 △272 長期借入金 +174
負債合計	21,017	19,971	+1,046	
純資産合計	6,006	5,752	+254	
負債純資産合計	27,024	25,724	+1,300	

(*)前渡金、前受金の主な増加要因は、ミニマム・アクセス米に係る取引によるものです。

注:数値は百万円未満切捨て。

7. 連結有利子負債残高の推移

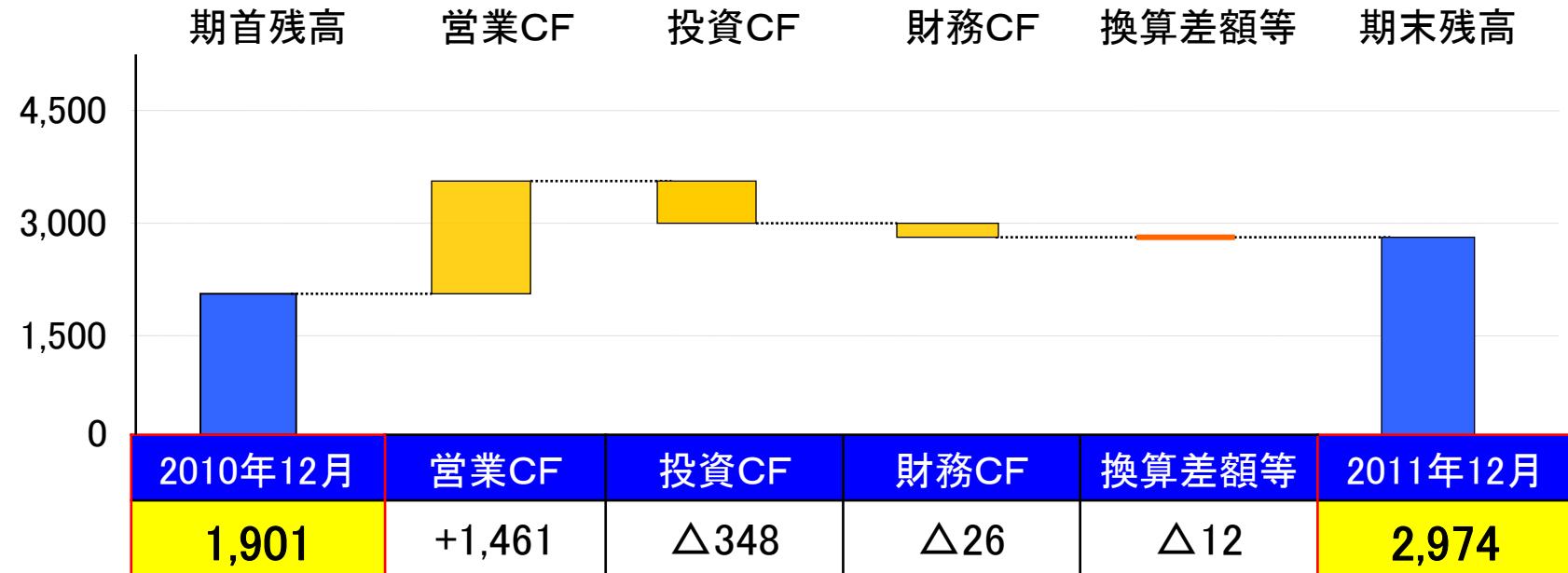
単位:百万円



注: 数値は百万円未満切捨て。

8. 連結キャッシュフロー

単位:百万円



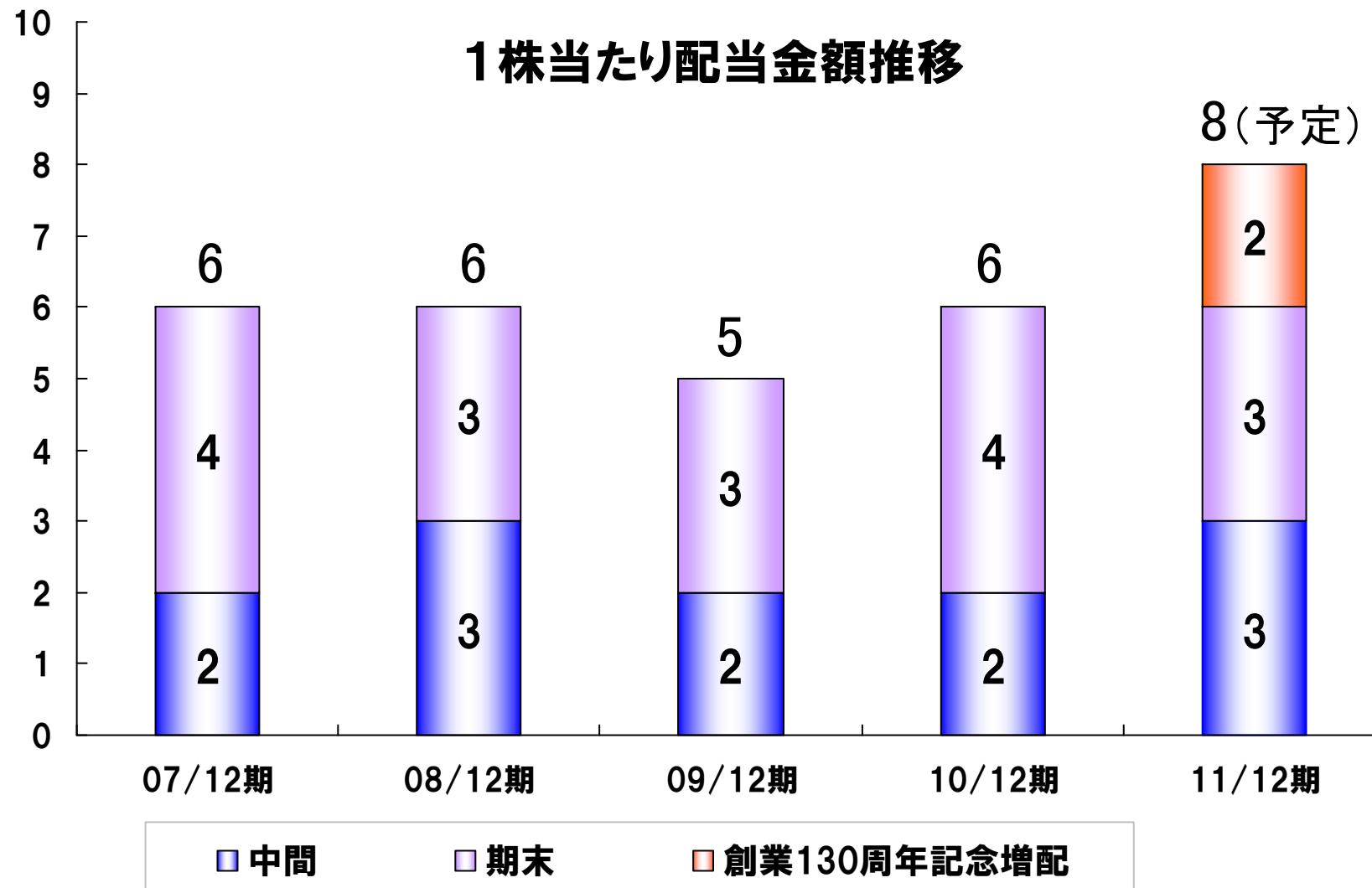
営業CF: 税金等調整前当期純利益 793 減価償却費 443
 減損損失 265 災害損失 834 前渡金の減少 2,229
 たな卸資産の増加 △2,584 法人税等の支払額 △286

投資CF: 投資有価証券取得 △161 貸付金 △156 関係会社出資金 △16

財務CF: 社債減少 △501 短期借入金増加 293 長期借入金増加 256

(*)その他流動資産

注:数値は百万円未満切捨て。





KITOKU SHINRYO

木徳神糧株式会社

今後の経営戦略



KITOKU SHINRYO

木徳神糧株式会社

おかげさまで、
2012年1月、創業130周年を迎えました。



おかげさまで、木徳神糧は創業130周年。

先行き不透明のなか、
消費ニーズは
低価格志向、付加価値追求の二極化。

人口の減少、
少子高齢化

食品表示等
規制の強化

- ・国内消費市場規模の縮小
・流通業界再編の加速
・食に係わるリスク要因の増加

飽和市場で
問われる戦略

原発事故収束
長期化の影響



主食としての
国内需要の減少

放射能への不安
心理の増大

販売チャネルの多様化、
ネット販売の台頭

- ・家庭用向けに安全性の確保が最重要に
- ・外食等の業務用向けに輸入米活用の機運

安全・安心で適正価格のコメの安定供給。

- ・総量(生産・供給)過剰、個別(銘柄・産地)不足
- ・卸会社にとってリスクとチャンスが並存

23年産米価格の
上昇で仕入コスト増

全農・農協の
集荷率の低下

エネルギー価格等の
上昇による製造コスト増



- 国内における確固たる地位の確保
- 海外におけるコメビジネスの展開
- 新しい用途、付加価値商品の強化
- 特徴ある飼料事業の成長
- 食品事業、鶏卵事業の再構築

◇国内市場における取引シェアの拡大

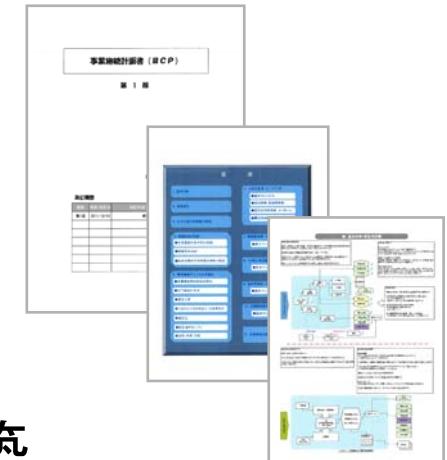
大手卸としての当社の存在感を發揮し、商品企画、原料調達、販売促進等におけるイニシアチブを強化(中京・関西地区を含む)。



米穀売場のイメージ

◇品質管理、リスクマネジメントの強化

- ・東日本大震災の教訓を踏まえて、事業継続計画(BCP)を刷新し、危機対応体制を再構築。
- ・第3者機関の協力により、原料の安全性に関するチェック体制を構築。



事業継続計画

◇米穀事業グループの再編

1月1日をもって国内米穀関連子会社3社を吸収合併。
全国をカバーする営業・生産拠点の最適化を図り、
統合による効率化とシナジー効果を追求。
(九州地区の生産機能を福岡工場(新宮)に集約。)

◇東北地区の営業・生産体制の立て直し

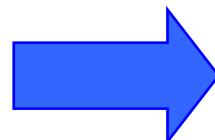
- ・東北支店の営業機能を震災後2ヶ月で移設・再開した。
- ・委託工場の活用で全壊した仙台工場の生産を補う。



事務所(震災前)



事務所(震災直後)



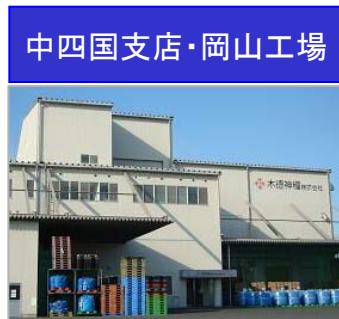
新事務所



国内における確固たる地位の確保

木徳神糧株式会社

国内主要な製造・販売拠点



◇アンジックス・キトクの営業・生産体制の強化

- ・脱穀工場の新設により精米品質の向上を図る。
- ・長粒種及び中粒種米の三国間貿易に注力。
- ・北米市場等の新規開拓を強化。



ジャポニカ米の栽培

◇MA米、SBS米輸入の強化

- ・キトク・アメリカ、キトク・タイランド等の現地法人を活用し、安定的なMA米の取扱いを目指す。
- ・業務用ニーズに対しSBS方式による輸入を拡大。



MA米の荷上げ

◇中国市場での営業開拓

- ・木徳(大連)貿易を活用し、中国国内での営業活動を積極的に展開。
- ・中国の有力パートナーとの連携を図り、生産及び物流網の構築を促進。



米穀販売店(大連市)

◇日本米輸出への貢献

- ・シンガポールや香港向けの輸出を拡大。
- ・国内生産者や生産団体との連携を強化。



日本米の輸出

◇低たんぱくコメ加工品事業の拡大

- ・白飯おにぎり、かりんとうは春に発売。
- ・酵素活用で1年以上長期保存が効くアルファ化米を早期販売。
- ・ホームベーカリー用の低たんぱく米ミックス粉を発売。
- ・カルローズを使用した越後シリーズ無菌米飯の販売を拡大。

◇新しい機能性商品の開発

- ・もち米を使ったアルファ化玄米の製造開始に向けて新規プロジェクトチームを発足。
「簡単に炊ける」、「美味しい玄米」がキーワード。



アルファ化低たんぱく米



米粉パンミックス粉



低たんぱく米白飯おにぎり

◇コメの新しい用途や販売チャネルの開発

- ・こめ油「こめしづり」の業務用販売を強化。
(大手コンビニのサラダ原料に採用。)
- ・「ライスミルク・生姜味」の新商品を春に発売。
高齢者の栄養摂取に役立つ商品開発を加速。
(容器形状やパッケージ等の新規考案。)
- ・ネット通販サイトを開設。



◇米粉需要の創造(コメ消費拡大、自給率の向上)

- ・23年産新規需要米契約年間約1,000トンを実施。
今後も販売促進に努める。
- ・食品メーカー等向けの提案型営業を強化。

◇安全・安心な飼料原料の供給

- ・外部環境や取引先のニーズに即応し、当社の優位性を発揮。
- ・11年12月期数量拡大により売上高約50億円、前期比17%強の伸びを達成。今後も取扱規模の継続的な拡大を目指す。

◇輸入飼料の取扱い強化

グループのネットワークを生かし、大手商社と差別化できる原料の輸入を拡大。



カナダの牧草地



アメリカの牧草地



◇鶏肉分野の再構築(内外食品)

- ・当社の経営人材を投入し経営体制を強化。
- ・ニッチ市場をターゲットに量販店等への販売を拡大。
- ・ネット通販等の販売チャネルを開発。

◇惣菜分野の収益改善(東洋キトクフーズ)

- ・玄米を使用した付加価値惣菜商品を拡充。
- ・製造の効率化と一段のコストダウンを追求。



玄米入り蒸し鶏とたまごの
生姜粥

◇鶏卵事業のコストダウン(東洋キトクフーズ)

- ・価格競争に耐える低コスト体制を再構築。



12年12月期連結業績予想

木徳神糧株式会社

単位:百万円、%

項目	12年12月期予想	11年12月期実績	増減	比率
売上高	104,000	100,745	+3,255	+3.2
営業利益	1,220	1,568	△348	△22.2
経常利益	1,130	1,574	△444	△28.2
当期純利益	770	351	+419	+118.9

注:数値は百万円未満切捨て。



本資料は、連結業績等に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。

また、本資料のうち、業績計画等に記載されている各数値は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づき算定しており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等と異なる可能性があります。

130th
Anniversary

おかげさまで、木徳神糧は創業130周年。

 木徳神糧株式会社

Copyright© KITOKU SHINRYO Co., Ltd. All Rights Reserved.